

共生のきずなを求めて!

NPO 現代座

2015 年 2 月 1 日 発行
(通巻 464 号)

現代座レポート 61

- ・ 51 年目を迎えた現代座 (1)
- ・ 2014 年度の主な出来事 (2)
- ・ 『約束の水』 ものがたり (3)
- ・ 『遠い空の下の故郷』 (4)
- ・ S P レコード雑談会・緑町ふれあいサロン (5)
- ・ NPO 現代座を支える人々 第 18 回 桑原重美さん (6)
- ・ ヨガ教室はじまる 現代座会館・活動日誌 (7)
- ・ 全国の仲間から (8)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 NPO 現代座 発行責任者：木村快

〒184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号 TEL 042-381-5165 (代) FAX 042-381-6987

51 年目を迎えた現代座

2015 年、わたしたちは 51 年目を迎えました。今年には戦後 70 年目でもあり、世界も時代も揺れ動いています。心新たに時代と向かい合いたいと思います。

◆ 統一劇場の時代

1964 年 12 月 24 日、職業劇団・新制作座から 70 人の若者が突如解雇されました。明日からどうやって生きて行くのか。集まる場所もなく、1965 年 1 月 3 日、多摩丘陵に集まって相談会を開きました。平均年齢 23 歳の若者たちは 1965 年 3 月、統一劇場を結成。試行錯誤を続けながら、とにかく生き続けました。最初は小集団 5 班で全国を訪ね歩くこ



1965 年 1 月 3 日の多摩丘陵での相談会から始まる。

とから始め、3 年目から本格的な芝居を持って、全国を巡演するようになります。けれど、若者たちの志望する道はさまざまです。1982 年から話し合いを始め、「ふるさと・きやらばん」、「劇団希望舞台」を設立。それぞれの自由意志で所属を決め、1985 に独立した道を歩むことになりました。創立 20 年目でした。

* 統一劇場全国上演回数 4245 回。

◆ 現代座の時代

残ったグループが後の現代座となります。現代座は参加者全員の共生協同を原則とし、創造形式を一つに縛らないで再出発しました。母親グループは人形劇で、東京を離れられぬ在京グループは音楽や児童劇で生き生きと活躍した時代です。演劇の舞台は新たに加わった若者たちが全国公演の主力となり、全体を支えてくれました。

1983 年『遙かなる島』、1985 年『風は故郷へ』、1988 年『星と波と風と』、1996 年『絆をつくる町』など、地域の助け合いをテーマにした作品を作り続けました。

1990 年代になると全国的に過疎化が進み、地域と結びついた公演活動は次第に困難になってきました。中心メンバーの高齢化も進み、1998 年、阪神・淡路大震災から立ち上がる高齢者たちの姿を描いた『絆をつくる町』の上演を最後に、職業劇団としての幕を閉じます。それが創立 33 年目でした。

* 現代座全国上演回数 2262 回。

1995 年、震災ボランティアに参加して制作。



◆ NPO 現代座の時代

1997 年、諫早湾締め切りが社会問題となったとき、諫早を守る会の人々が劇団が解散したことを知らず、ぜひ環境の芝居を創って支援して欲しいと訪ねてきました。そこで有志が集まり、NPO として『虹の立つ海』を制作、全国を巡演しました。それが NPO 現代座のはじまりです。

以後、演劇 NPO として自由参加者を募り、地域を対象とした活動を続けています。

* NPO 全国上演回数 364 回

* 小集会用作品上演回数 140 回



環境破壊の 50 年後を描く『虹の立つ海』
全国 175 自治体で上演。

2014年度・主な出来事

大雪の中の『約束の水』公演（2月）

『約束の水』公演は、まず稽古中に大雪が降り、何とか雪かきをして初日の幕を開けました。ところが公演2日目にまたまた大雪。すっかり出鼻をくじかれてしまいました。それでも会員の皆さんの協力で五日間無事に終了しました。残念ながら大雪のために来場できなかった人がかなりおられ、12月に追加公演することになりました。（3P参照）

「武蔵野の歌が聞こえる」

上演サポーターの結成（4月）

4月に入るとすぐ『武蔵野の歌が聞こえる』の上演準備が始まります。普及活動の面でも平右衛門プロジェクト



① 2月、開演中も降り積もる雪、少しでも歩きやすくと。



② 4月、武蔵野の歌が聞こえる上演サポーター結成。



③ 8月、急遽、平和盆踊り応援チーム出発。



④ 9月、客席の椅子購入。7月、階段のリフォーム。



⑤ 9月、詰めかける観客を迎える案内サポーター。



⑥ 1月、川崎平右衛門プロジェクトは5年目を目指す。

クトのメンバーだけでは手が足りないので、新たに「武蔵野の歌が聞こえるサポーター」が結成されました。シニアSOHOでもホームページでの発信が始まりました。

盆踊りチームの編成（8月）

『武蔵野の歌が聞こえる』の稽古が追い込みになって、平和盆踊りの指導チーム編成の依頼を受けました。舞台出演者は無理なので、急遽、劇団希望舞台の森ひとみさん、西村いずみさんの応援を受けて盆踊り指導チームを編成しました。

階段改修と（7月）

客席の椅子購入（9月）

『武蔵野の歌が聞こえる』へのお誘い活動が広がる中で、現代座ホールの

階段や客席のイメージが暗いとの意見があるので、もっと明るくしようと言いつことになり、今後のことあるの思い切つて階段をリフォームし、客席の椅子も新規に購入しました。

『武蔵野の歌が聞こえる』（9月）

レポート60号でお伝えしたとおり、5日間の公演では間に合わず、急遽1公演を追加しました。上演サポーターの皆さんがチラシを配り、さまざまな集会で訴え、会場を訪れる人々を迎えてくれました。

2015年の再演に向かって

ブックレット出版を計画（1月）

平右衛門プロジェクトはいよいよ5年目に向かいます。昨年の公演

は市民の間でかなり話題になったので、今年は引き続き、夏に再演することになりました。

そのための活動として、昨年一部の人が読んでいただいた『武蔵野の歌が聞こえる・概要』を誰でも簡単に読めるようなブックレットにして、普及する活動を始めます。

ブックレットの出版は名古屋の支持者田中義二さんが担当してくださることになりました。田中さんは名古屋の協同問題研究会で活動しておられ、小さな出版社を経営しておられます。「この作品はテーマが協同であるだけでなく、芝居づくりそのものが市民の協同であり、名古屋でも広げていきたいから、ぜひ出版のお手伝いをしたい」とのこと。

◆『武蔵野の歌が聞こえる』舞台写真、上演の動画はシニアSOHO小金井のホームページで視聴できます。

シニアSOHO小金井「平右衛門プロジェクト」ホームページ

<http://heimon.org>

約束の水

12月追加公演も無事終了しました。桑原重美さん、山本幸則さん、加賀谷公一さんが舞台写真を撮影してくださいました。



1. ミツコは廃墟の村で一人の老人と出会う。



2. 息子の啓一は父親を連れ戻そうとするが



3. 三郎は怒りのあまり足を踏み外し、転倒する。



4. 差し出された小石は、遠い記憶を呼び起こす。



5. 小さい一歩だけれど、村の心がよみがえり始める。

*写真撮影 1 桑原重美 2・4 山本幸則 3・5 加賀谷公一

◆廃墟の村で

Ｔ市の観光課にミツコと名乗る日系ブラジル人の若い女性が「谷山村へ行きたい」と訪ねて来た。戦前に谷山村からブラジルに移住したミツコの祖母が、故郷の村の「約束の水」という湧き水を恋しながら息を引き取ったという。ミツコはその「約束の水」を一目見たいと言うのである。だが、谷山村は今ももうない。Ｔ市の山奥の無人の集落となっている。かつて谷山村で生まれたというミキと靖夫がミツコを案内することになるが、泉探しは難航する。

◆高齢者と呼ばれて

ミツコたちは谷山地区で山中三郎という老人と出会う。山中三郎は長い間寝たきりの妻チヨを介護していたが、

チヨが亡くなると急に無口になり、周りからはボケてきたのではないかと心配されていた。

三郎はひそかに廃墟の谷山地区に戻り、かつて住んだ家を手直しし、小さな畑を耕し、あちこちに集落の特徴やいわれを書いた案内板を立て、昔の記憶を呼び戻そうと努力していた。三郎にとって、村はまだ生きていたのだ。

三郎はミツコから「約束の水」について尋ねられるが、どうしても思い出せない。しかし、見捨てられたこの村を終生恋しがったというミツコの祖母の話聞き、なんととしても探してやりたいと思った。

◆親父を連れ戻せ

時折姿を消す三郎の行方を怪しんで、街の人々は「山中の息子は父親を

山の中に放置している」と噂する。息子啓一と妻よし子はなんとしても父親を連れ戻さねばと、林業作業士竹田の協力を受け、谷山地区へ乗り込む。そして力づくで街へ連れ帰ろうとする。三郎は抵抗するうちに足を踏み外して転倒し、「もう終わりだ」とうなだれる。

◆約束の水を求めて

見かねたミツコは「おじいさんとお会いできただけで十分です」とお礼に祖母の形見だという小石を差し出す。それは「約束の水」の水受け場に敷き詰められていた小石の一つだった。その石を見つめるうちに三郎はみるみる生気を取り戻す。自分も戦前、満蒙開拓青少年義勇軍に参加し、この小石をお守り代わりに持って満州へ渡ったという。三郎は昔の村の様子を生き

生きと語り始める。だが戦後食糧難の時代、多くの村人が戻ってきて畑を拡大したため、森が消え、泉の水は出なくなっただけを思い出す。そしてまた、人はいなくなつた。

◆新しい暮らしが始まる

息子の啓一が突然「約束の水を探そう」と言い出す。自分たちは大事な夢を失っていたのだ。一同はかつての村の記憶を辿り、泉探しを始める。

「約束の水だ！」。森の奥に小さな泉が復活していた。ミツコは「この水をブラジルへ持って帰って、おばあさんのお墓にかけてやります」と一同に礼を言う。

一同は改めて谷山地区を見直し、三郎の経験に学びながら、新しい心の場としてよみがえらせようと思った。

『遠い空の下の故郷』

〜ハンセン病療養所に生きて〜

11月16日(日) 長野県 佐久市

佐久仏教会と仏教婦人会が毎年やっている「秋のさわやか講演会」に呼んでいただきました。

佐久市には、昔から公演に協力してくださっている佐々木都さんや、このハンセン病の語りを2回もお寺でやってくださった桃源院があります。そういう方のお力添えで、春に仏教婦人会の会長の岡村富子さんにお会いすることができました。お話ししてみたら、私と長野市の中学校の同窓生だということが分かって、話がはずみました。

「ハンセン病療養所」で生きてきた女性の人生を語ることで、皆さんと差別についていっしょに考えたい、とい



う私の訴えを受け止めてくださって、早速仏教会の事務局の方と相談してください、秋の講演会の講師に決めてくださいました。

「ラポール佐久」という斎場を会場に佐久市と南佐久のお寺の檀家の方が250人ほど集まってくれました。

アコーディオンの松本真理子さんの演奏と私の語り、という二人のチームでしたが、松本市から今村純二・俣子夫妻もかけつけてくれました。熱心に聞いてくださるご婦人達に支えられて、私も精一杯丁寧に語り、いっしょに歌うことができました。ありがとうございました。

(木下美智子)



この遺産をどう生かすか

戦時中の紙芝居

現代座の書庫に、昭和16年から昭和18年までの戦争中に使用された紙芝居が20セットばかり保存されています。年明け1月の雑談会でこれが話題になりました。

これは統一劇場初期、親身になって支援して下さった川崎大治先生(1902-1980)から頂いた物です。川崎先生は巖谷小波門下の児童文学者で、日本児童文学者協会の会長を務めておられました。戦前は思想が偏っているという理由で投獄された経験をお持ちでした。紙芝居については特別にお聞きしましたが、今になって、先生はわたしたちに何を託されたのだろうかと思ひ返しています。

今年は戦後70年目であり、平和を考える節目の年でもあります。あの戦争中だって、日本人はやっぱり、喜び、悲しみ、恐れ、不安を持って暮らしていました。

ここに『奮へ(ふるえ)！日本少国民』という作品があります。戦時下の少国民はいかにあるべきかを語る紙芝居です。

わたしは植民地時代の朝鮮生まれ。戦争が始まってすぐの昭和17年、国民学校2期の入学です。「こども」ではなく、「少国民」と呼ばれ、小さい大人として扱われた世代です。4年生から5年生にかけては空襲、

敗戦、引き揚げの大混乱期、そして教科書のない時代を通り過ぎました。

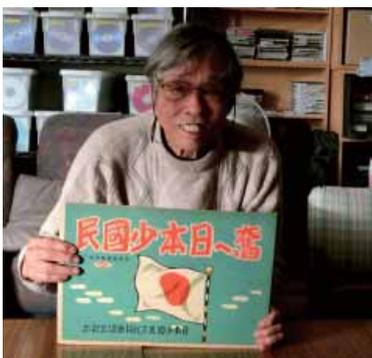
『南の棟領』は南方戦線に派遣された大工さんの話。実はあの戦争では兵士だけでなく、技術を持った民間人も、軍属として軍隊の一部に組み込まれていたのです。

昭和18年になると『玉碎軍神部隊』、『山本五十六元帥』、『ブキ・テマ高地』など、大本営発表の戦況を伝える作品が多くなります。ほとんどの家庭が肉親を戦地に送り出していましたから、強い関心を持ちながらも、複雑な気持ちで観ていたでしょう。わが家もその頃、父が母子5人を置いて、やがて玉碎(全滅)する硫黄島に向かっていました。母の顔、隣のおばさんの顔、町の人々のたたずまいなど、いろいろな光景が目に見えます。

これらの紙芝居を見ると、わたしたちは何か大切なことを忘れていたのではないかという気がします。70年前までの日本人の生活の様子について、語れる人は語り、

現代の生活と突き比べてみることも大事なことだとおもいます。

(木村快)



S P R Eコード雑談会

雑談会は2010年から始まりました。使用する曲は昭和35年以前の78回転レコードの音源が中心です。毎回テーマを決め、それに応じた資料・音源を木村快が用意し、コーヒー、紅茶、ビールを飲みながらの気楽な講座です。

2014年のSPREコード雑談会は「満州(中国東北部)」を考えた年でした。2月の『約束の水』の公演を観た後だったので、主人公の山中三郎が満蒙開拓青少年義勇軍に参加した過去を持つということが話題になりました。

「日本人にとって満州とはいったい何だったのかを考えてみよう」ということになりました。満州に関係する歌を吹き込んでいる田端義夫、東海林太郎、渡辺はま子、李香蘭(山口淑子)を2回ずつ取り上げました。

現代座2階の和室の壁には昭和8年の満州事変記念として発行された満州地図が張り出され、時には満州映画のニューズなどを織り交ぜながら、改めてそんな時代があったことを振り返りました。



田端義夫は昭和14年のデビューで、青少年のファンが多く、少年開拓団の宿舎

では「国境千里」「蘭の花咲く満州で」「黒竜江の船唄」が愛唱歌だったようです。



東海林太郎と言えば「赤城の子守唄」などがあるのですが、実は南満州鉄道(通称満鉄)に勤務した時代、左遷された経験を持ち、ロシア革命で亡命した白系ロシア人たちとも交流しています。「キャラバンの鈴」「国境を越えて」などを吹き込んでいます。



渡辺はま子は『何日君再来(ホーリ・チン・ツァイライ)』『支那の夜』など大陸物の歌謡で有名です。中国で軍隊の慰問活動をしていたとき敗戦を迎えますが、自ら残留を希望し、残留邦人収容所での慰問活動を続けています。

また、フィリピン戦犯収容所の受刑者がまともな裁判もいまま刑を執行されていると聞き、受刑者による作詞作曲「モンテンルパの夜は更けて」をレコード化し、受刑者救済のための活動をつづけ、フィリピン大統領に訴え、ついに全員帰国させています。



ちょうど9月に山口淑子が亡くなりました。日本人でありながら国策のために満州人歌手・李香蘭として売られて死刑を求刑されるなど、数奇な生涯を送っています。例会では主として李香蘭時代の「紅い睡蓮」「何日君再来(中国語)」などを聴きました。

緑町ふれあいサロン



毎月第3木曜日にやっている「緑町ふれあいサロン」もやり始めて1年以上が過ぎました。現代座のある小金井市の緑町第2町会の女性の役員さんや民生委員さんが世話役です。地域のお年寄りや、子育て中のお母さんや、退職した方や、どんな人でも気楽に集まっておしゃべりできる集いをやろうと、回覧板や口コミで呼びかけました。

最初は初めて顔を合わせた人たちも、話してみればすぐ近くに住んでいるご近所同士。毎回顔を合わせるのが楽しみになっていくようです。90歳を越えてもおしゃれを楽しんでいる方。退職して地域デビューしたばかりの方。病院で腎臓透析を受けながら駆けつける方。毎回10人を越える人が集まります。1時半から3時半までの2時間の予定なのですが、おしゃべりが止まらな

くて、つい時間をオーバーしてしまいました。最近では詩吟を習っている方の先導で、みんなで自己流に詩吟をうたつたり、季節の歌をうたつたり。そして奇数月には、現代座に出演している長谷川葉月さんが朗読をやっています。今年1月は朗読ではなく「紙芝居」をふたつ。太鼓がドンと鳴って紙芝居が始まると、みんなワクワクして紙芝居を楽しんでいました。

地域の人のいっしょに、地域の役に立つことをやりたい、というNPO現代座の思いが実現した、小さいけれど大切なサロンです。



NPO現代座を支える人々

第十八回 桑原重美さん

記 武本英之



くわはら しげみ

1934年東京都生まれ。
長年NHKで報道・
教養・生活情報のカメ
ラマンを担当していた。
1991年以後フリーカ
メラマン。

「現代座50年の歴史映像」を

歴史の記録者——そんな言葉がぴったりの人が桑原さんである。現代の歴史を映像カメラを担いで記録していくことに情熱を燃やしておられる。ただ今80歳。その情熱はいよいよ盛ん、統一劇場・現代座の仕事は今年51年目を迎える。数々残る芝居の映像や写真を集大成して『映像で観る現代座』と題した記録映像を制作し、「これからの人たちに遺しましょう」と現代座の歴史の映像化に木村快さんと一緒に着手された。

NHKカメラマンのご出身である。現代座との関わりは20年以上になる。現代座と知り合った1990年以降、ほぼ全ての上演芝居を撮り続けてこられた。桑原さんの記録映像の特筆すべき所は、単に芝居の記録にとどまらず、上演前の観客の様子、出演者の緊張した表情、スタッフの慌しい仕事ぶりなどがきっちりカメラに収められている点だ。

最新作の「武蔵野の歌が聞こえる」では、舞台稽古

の打ち合わせ風景が写し撮られており、上演への道のりの一端を垣間見ることが出来る。さらにカメラを自ら回しながら、インタビュアーを行い、芝居に関わった人達のその時々を記録していつていく。「武蔵野のうた」では川崎平右衛門プロジェクトのリーダー・塚田善久さんのインタビュアーが収録されている。塚田さんは「今日は最後の公演。明日から何をするか困っております」と率直にお話になっているが、いかに上演に打ち込んでこられたか、この映像インタビュアーは切り取って見せる。

ブラジル公演1万キロの旅

桑原さんが現代座と本格的に関わったのは、ブラジル移民30年目の帰郷と日本の現実を描いた「もくれんのうた」のブラジル公演（1994年）である。カメラを担いで、36日間、5州12都市15ステージ、1万キロを現代座の人々と旅して回った。「緊張と不安の毎日でした」と桑原さん。「現役時代は音声と撮影は分業で、それをスタジオで編集します。このときは全部一人でやりましたから、音声がきちんと取れているか絶えず不安でした。」と振り返る。

持参した120分テープ30本には当時の日系移民の貴重な記録映像がぎっしりと詰まっていたはずだ。筆者はそれを1本のDVDに編集した「もくれんのうたブラジル公演1万キロの旅」を観させていたのだが、上演都市の風景から日系ブラジル人の観客のごよめきまで記録されている。一昨年5月には「友の呼ぶ声」の長野県松本市公演に同行、塩尻、松本の舞台設営から上演本番まで記録されている。

生きた証しとして

桑原さんの映像記録は、関係者に懐かしい思い出のシーンであるばかりではなく、第三者の人間が観ても「そうなのか」といった事実を知らしめる貴重な映像記録となっている。「自分たちがやってきたことは自分たちではよく判らないんです。こうして撮っておいてくれたおかげで、良かったことも悪かったことも、これからの人たちのために残さなければと思っております。」と快さんは決意を新たにしている。

ここまで桑原さんを動かす原動力は何か。「快先生に入れ込んでいただけです。演劇のことはよく知りません。二ユーアの映像で飯を食ってきた人間ですから。悲しみや喜びを共有しようという快先生の理念が好きですね」と桑原さん。ちなみに桑原さんの一押しの木村快作品は地域医療に奮闘する人々を描いた「朝の風に吹かれて」（1992年〜1994年全国上演）だそうである。

桑原さんの現代座以外のもう一つの関心事は、沖縄の聖地巡礼。これはNHK時代、市民大学講座「沖縄の歴史と文化」で撮影を担当したことから、沖縄の歴史と風土に心惹かれ、以後、機会あるごとに沖縄訪問を続けている。

写真集とエッセー『南島の聖地と祭り』（2006年）、『続・南島の聖地と祭り』（2012年沖縄学研究所刊）を出版されている。（了）



※このシリーズを担当している筆者の武本英之さんは専門紙「東京交通新聞」の編集局長。NPO現代座正会員でもあります。

NPO 現代座 東志野香のYOGA教室

初心者向けのクラスです

私がヨガを始めたのは、偶然でした。膝が悪いのでピラティスをやってみていたと思い、見つけたスタジオにヨガクラスもあったので、やってみたら「ヨガのクラスの方が好きだな」と感じ、続けてみると、悩んでいた頭痛・肩首の慢性的なこり、女性特有の自律神経の乱れによる体調不良に効果抜群だったので、ハマってしまいました。

私が出会ったヨガは、じつとポーズするよりも、呼吸に合わせて動いている時間の方が多くです。普段、同じ姿勢で同じ筋肉を同じ方向に使う事が多かったため、全身の様々な部分を様々な方向に動かすこのヨガは、私に合っていました。ヨガにはたくさん種類があり、違う種類のヨガだったら続けなかったかもしれません。これからヨガを始めたい方、一度やってみただけで合わないと思った方、ほとんどのヨガスタジオに体験クラスがあるので、是非、いろんな種類のヨガを試してみてください。

「ヨガって凄く効果があるから、やりなよ」と、友人知人に言い回っているのと「身体が硬いから不安」の他に「スタジオに定期的に通う時間が無い」「見学に行ったら皆オシャレなヨガウェアを着ていて気後れした」という声。自分が教えられれば手取り早いものかと思いつつ、また、ヨガを知る程、この有用な情報を皆でシェアしないと勿体無いと思いつつ、インスタグラマー資格を取得しました。週に一度ですが、現代座会館3階で、バスタオルを敷き、



現代座ホールの階段にて

東 志野香は現代座の舞台に出演している俳優です。

座布団など、家に有るような物を使って、気軽に始められるヨガ教室が実現しました。

「身体が硬い」などの不安ですが、ヨガは、自分の身体と意識（心）と呼吸を繋げていくもので、完璧なポーズよりも自分の身体の動かし方を知る事や、それによって感じる事、が大切です。また、補助する道具を使ったり代替のポーズなども研究され、ヨガも進化していますので、身体の柔軟性はさほど気にする必要はありません。また、私もそうですが、今は解剖学を勉強し、「ケガをしないヨガ」を目指す先生が増えていきますから、ヨガを始めるとは良い時期だと思います。そして、自分のペースで、自分の身体と仲良くなること、他人と比べない、頑張りすぎない事が大切です。発売されている本やDVDなどは、とても参考になります。ケガをしないためと、効率よく効果を得るためには、初めは先生の指導を受ける事をおすすめします。

ぜひ、チャレンジしてください！

(東 志野香)

毎週火曜日 10:15 ~ 11:15 (60分) 参加費 1000円 (1レッスン)

場所 現代座会館 3F (階が変更になる事もあります) *着替える場所はありますが、ロッカーは有りません。

持ち物 バスタオル1枚 (床に敷いて使います) または、ヨガマット
スポーツタオル (長方形のタオル) 1枚・飲み物 (水、スポーツ飲料など)
動きやすい服装

お問い合わせ&お申し込み 東志野香 メール shinoka123@gmail.com
NPO 現代座 TEL 042-381-5165 FAX 042-381-6987

現代座会館 11月~1月 活動日誌

11月1日「現代座レポート60号」発送作業

20日「緑町ふれあいサロン」

11日「約束の水」稽古

12月5日~8日「約束の水」公演

16日 現代座スタッフ・出演者会議

17日 平右衛門プロジェクト会議

18日「緑町ふれあいサロン」

17~19日 愛知書房・田中氏来訪 出版打合せ

24日ブラジルから「ニッケイ新聞」深沢編集長来訪

1月12日 新年会

14日~会館東側壁面修理塗装開始。

15日「緑町ふれあいサロン」

16日 平右衛門プロジェクト会議

25日「SPレコード雑談会」

【現代座ホール】

11月3日「シアター青芸」稽古

11月11~13日「約束の水」稽古

11月23~24日「希望舞台」稽古

11月27~30日 劇好「サボテンアミーゴ」公演

12月1~8日「約束の水」稽古・公演

12月9日「シアター青芸」稽古

12月15~21日 演劇ユニット「チャンぷる」公演

【三階小ホール】

11月1日 岡田京子「めだか大学」

11月3日 津田「リトル・コンサート」

1月16・25・26・30・31日「希望舞台」稽古

【定期使用一階サロン】

毎日曜日 早稲田ラジオスクール (学生支援)

毎月曜日 子どもクラブ・パンピーノ

毎水曜日 熟年パソコンサークル

隔木曜日 iPad熟年講座

毎火曜日 東志野香のヨガ教室 (3F)

全国の仲間から

山崎さんから新米の贈り物

現代座には各地の会員さんが、色々な産物を送ってくださいます。昨年は北海道北見市の信田直哉さんからジャガイモ、北海道赤平市の青柳省三さんと鷺津信子さんから茄子やトマトなどの野菜、北海道八雲町の赤井義範、睦美夫妻からはサンマ等々、嬉しい贈り物がたくさん届きました。そして秋の収穫が終わる頃、毎年沢山の新米を届けてくださるのが長野市川中島の山崎清隆さんです。

長野県は統一劇場時代から公演回数も多く、協力者も大勢います。今回いつもお世話になっている今村夫婦（純二・倅子）が山崎さんのもとを訪ねました。3年前の「友の呼ぶ声」長野公演では久しぶりに昔の仲間と実行委員会に参加してくれました。

山崎さんは長野マラソンに参加したり、日帰りで八ヶ岳縦走をしたり、フットワークの軽い63歳、ひと言でいうなら「気の良い男」です。

山崎さんは20歳の時、川中島町の青年団体「サークルつどい」に参加しました。「ひとりぼっちの青年をなくそう」という合い言葉に心を動かされたのだそうです。1970年代は、まだ地域に支えられる青年団やサークルが沢山ありました。

「サークルつどい」が統一劇場の公演を主催することになり、山崎さんは実行委員会の一人として公演成功のため駆け回り、統一劇場とのつきあいが始まりました。



山崎清隆さん（真ん中）と右側・今村倅子、今村純二

なにが私たちとの付き合いをここまで続けさせたのですかと聞くと「金はなく、貧しい暮らしでありながら、自分の好きなことを一杯買っている姿に『生き方』を学んだ」と言います。奥様の幸子さんも一緒に活動したいわば「仲間」でした。

山崎さんは退職した今、お父さんの残した農園でリンゴやモモを栽培しています。特に白桃は絶品です。お米も「冬期湛水・不耕起・無農薬」という農法で挑戦しています。冬場にも水を張った田んぼには力もたちがやってくる来ます。

毎年自然との根比べで、苦労もあるとのことですが、出来たお米はNPO現代座のために毎年沢山送ってくれるので、私たちはこの「山崎さんの新米」を楽しみにしているので、いつもありがとうございます。（今村純二）

編集後記：

2月1日発行の予定が遅くなってしまいました。まだ今年の公演の日程も決まっていますが、「武蔵野の歌が聞こえる」公演の他に、3F小ホールでの「語り」などをやりたいと思っています。（木村快）

NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

★年会費（現代座レポート購読料を含む）

一般会員 3,000円
協賛会員 10,000円（1口以上）
郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座